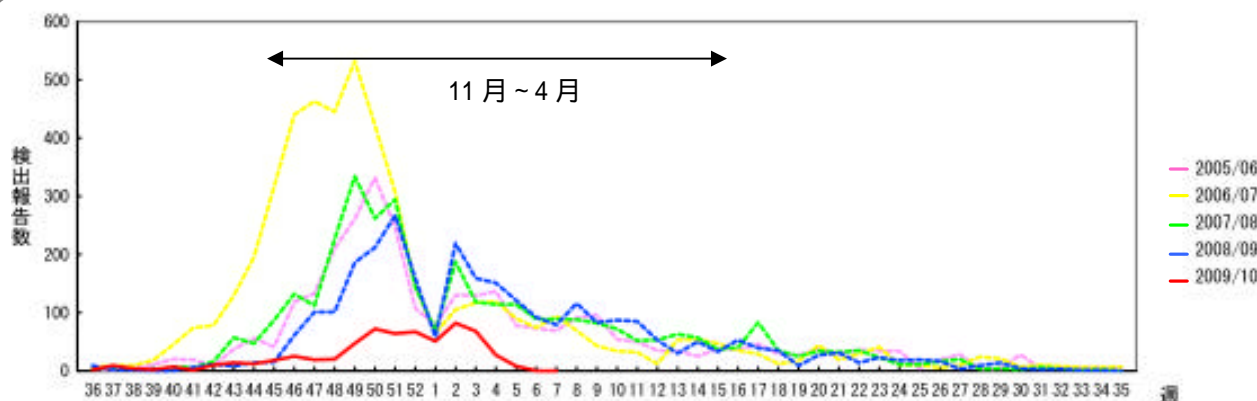




手洗いは習慣に！

2009年から続く新型インフルエンザの流行により、例年以上に手洗いやアルコールによる手指消毒、ウガイ、咳エチケットなどの感染予防対策に気をつけて生活されていたのではないのでしょうか？しかし、最近の終息傾向により、ようやく新型インフルエンザも終わるのか～と気がゆるみ、これらの対策を忘れていませんか？新型インフルエンザの影に隠れているものの、季節性のインフルエンザの流行や他の感染症も無くなった訳ではありません。

冬に感染者数が増える感染症としてノロウイルスによる食中毒があります。ノロウイルスは、人の腸内で増え、嘔吐、下痢、腹痛など急性胃腸炎の症状を起こします。多くの場合は数日で自然に回復しますが、お年寄りや子供では症状が長引くことや、重篤化し死亡するケースもあります。季節的には例年11月～4月ごろまで流行します。人への感染経路は、主に経口感染で、ノロウイルスに汚染された飲料水や食品（汚染されたカキあるいはその他の二枚貝類の生、あるいは加熱不十分なものなど）を飲食することで感染（食中毒）します。他にも、ノロウイルスで汚染されたものや手指が触れたものに接触し、その接触した部分を口にしてしまう事で感染したり、感染者の糞便や吐物の飛沫を吸引したりすることでも感染します。ノロウイルスは感染力が強く、わずかなウイルスでも感染してしまうので被害が拡大しやすいです。そして、対策としては手洗いが最も有効な予防策になります。



週別SRSV（ノロウイルス、サポウイルス）検出報告数、過去4シーズンとの比較、2005/06～2009/10シーズン

（病原微生物検出情報：2010年2月15日 作成）

*各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した

国立感染症研究所 HP より引用 一部加工

毎年、ノロウイルスの流行は検出報告数として統計が取られており、毎年11月ごろから急激に増え、冬場に流行する傾向が見られます。しかし、今年度（2009年度）は、冬になり増えてきているものの、11月頃からの急激な増加が見られず、例年より明らかに少ない状況です（上表参照。赤ラインが2009年度）。これは、新型インフルエンザの流行で、手洗いがよくされるようになったからではないかと推測されます。

手洗いをはじめとする新型インフルエンザ予防対策は、新型インフルエンザのためだけでなく、他の感染症対策にも有効な対策です。これを機に感染症対策を習慣づけて頂きたいです。

調べてみました！

手洗いは、清潔好きな日本だけのこと？



感染症対策としての手洗いは世界でも重要視されています。ユニセフでは「世界手洗いの日（10/15）」を定めて世界中で正しい手洗いを広めるイベントをしているぐらいです。

世界では、年間880万人もの子どもたちが、予防可能な病気が原因で命を落としています。せっけんを使って正しく手を洗うことで、その原因ともなっている下痢性疾患などを予防し、100万人の子どもたちの命が守られると言われています。たかが手洗いと思われるかもしれませんが、命を救う手洗いでもあります。また簡単にでき、費用対効果が高い有効な対策です。正しい手洗い習慣を身につけたいですね。